

我ら、山県市 地域おこし 協力隊！⑪

きた がわ きょう こ
北川 京子



耕作放棄地を利用して、ハーブ園を作りたい。
北川京子さんは、そんな思いを胸に今年3月、地域おこし協力隊として山県市にやってきた。

北川さんは、大阪府大阪市出身で、大阪市内の企業で販売員や事務員として働いていた。しかし、都会で生まれ育ったからこそ、自然豊かな田舎暮らしへの憧れが強く、四国の山間部での田舎暮らしを経て、出戸地区に移住してきた。

— 山県市を知るきっかけは？ —

「私は、自然の恵みを生かした生活を送りたいという思いで、積極的に生活にハーブを取り入れています。ハーブに関する書籍を読んだり、講座を受講したりするなかで、全国各地のハーブ園を巡り、山県市の四国山香りの森公園を知りました。また、趣味であるリバーカヤックをするため、神崎川に訪れたこともあり、山県市に興味を持ちました」

— どんな活動をするの？ —

「具体的には、使用されていない田畑でハーブを育て、ハーブ園を作りたいと考えています。ハーブ園が完成したら農家カフェもやりたいです。ハーブ園やカフェが周辺住民の憩いの場になり、市外から訪問される人々との交流の場になればと思います」

そんな北川さんは現在、出戸地区で畑を借りてハーブ園作りに取り組んでいる。「まずは畑に花壇を作りたい」と笑顔で語る北川さん。

ハーブ園が完成したら、自家栽培のハーブを使ったハーブティを提供する農家カフェを開業したいと考えている。さらに、栽培したハーブを使って、ハーブティーの茶葉やハーブバスの入浴剤など山県市の特性に合った商品の開発も併せて行っていくつもりだ。

— 市民の皆さんに一言 —

「これまで、山県市にはカヤックをしに来たり、四国山香りの森公園を訪れたりはありますが、全く知り合いがいない中で移住してきました。これからたくさんの人と知り合い、仲良くしていけたらうれしいです。ハーブ園作りをするにあたり、廃材や不要になった資材を活用したいと考えています。提供いただける人は、気軽にお声かけください」

ハーブ栽培をとおして、使われなくなった農地に彩りを取り戻し、人々の笑顔あふれる憩いの場を提供することで山県市の活性化につなげ、全国に山県市がPRできるよう活動していきたいと語ってくれた。

編集後記

今日は給食を特集しました。大好きだったメニューを懐かしく思い出します。カレーライスに揚げパン！ソフト麺にミートソース。わかめごはんも好きだったな。牛乳に混ぜるとコーヒール牛乳になる、不思議な粉も。年々「あれ、あれやて！」と、記憶が微妙なことが増えつつありますが…。どうやら、食にまつわる楽しい記憶は鮮明なようです。

今日は、100歳のお誕生日を迎えられた堀田さんの取材に行きました。

足が痛むそうですが、100歳になられた今でも、自分でできることは極力自分でやられるということで、大変驚きました。

最近、自分自身体力の衰えを感じていましたが、まだまだ、弱音を言っては恥ずかしいと感じました。

東海環状自動車道の工事が進み、ついに橋が架かりはじめました。広報担当となつて3年、山県市東部と岐阜市東部をつなぐ岐阜山県トンネル（仮称）の着工式から貫通式、また（仮称）高富ICの富岡小学校児童児童見学会など、さまざまな工事の段階で取材してきました。5月には東深瀬地区の皆さんと一緒に、実際に橋桁を架ける様子を見させていただき、ずっと追いかけてきたものが形になっていく様子に少し感動しました。

広報
山県

Kouhou
YAMAGATA

発行 山県市
〒501-2192
岐阜県山県市高木1000-1

編集 企画財政課
Tel 0581-22-6825
Fax 0581-27-2075

URL <http://www.city.yamagata.gifu.jp/>
E-mail info@city.gifu-yamagata.lg.jp

R70

VEGETABLE
OIL INK

この広報紙は再生紙を使用し、大豆油を含む植物油を使用したインキで印刷されています。

UD
FONT
by MORISAWA